

平成30年度予算特別委員会等について

1 審査日程

(1) 予算特別委員会

平成30年3月2日（金）～平成30年3月8日（木）

教育委員会関係 平成30年3月5日（月）

(2) 文教厚生委員会

平成30年3月13日（火）

2 教育委員会関係の審査内容

別紙「主な質問・答弁」のとおり

平成30年度予算特別委員会(文教厚生分科会)主な質問・答弁

【学校教育関係】

質問項目	質問の要旨	答弁の要旨	質問委員	担当課
志和小中一貫校 建築設計業務委 託について	・志和の小中一貫校について、ど のように適地と判断されたのか。	・現在の志和中学校敷地内に新たに小学校を建設 するものであり、中学校の敷地が3小学校から見て 概ね中心であるということで選定した。	谷分科員	教育総務課
	・浸水地として予想されている箇所 であるが、市民の知恵を借りなが ら、選定をする考えはなかったの か。	・当面は志和堀小と西志和小で統合ということに なっているが、統合協議会の中では中学校の敷地 ではだめだという意見はなかったので、ご理解をい ただいたと認識している。		
	・当面は西と堀で先行するとのこと だが、設計は3小学校を統合する という前提で進めるのか。	・基本設計は2校での設計になる。3校での合意が とれた場合は、状況に応じて設計変更や増築で対 応する。	奥谷委員	
小中学校教育支 援者配置事業に ついて	・今年度も同じ人数を配置されてい るが、要望との関係はどうなってい るか。	・学校からの要望は、昨年度より少し減っている が、依然として多くある。来年度も人数的には変わ らないが、指導力の向上や工夫によって、取り組ん でいく。特別支援教育サポーター制度も活用する。	北林分科員	指導課
	・要望を出された学校の実態把握 はどのようにしているのか。	・指導主事が学校訪問をする中で把握している。新 一年生として入学される方は、教育相談や実際の 幼稚園訪問を通じて把握している。そのうえで必要 と判断したところに配置している。		
	・教育支援員や補助員は登録制な のか。	・登録制ではなく、教育委員会で把握をしている。	小川分科員	
	・教育委員会で把握するには限度 がある。周知はされているのか。	・現在の教育支援員や補助員から紹介していただ いたり、他の非常勤と同様に広報で募集することも ある。		
小学校プール改 築事業について	・コンクリートから他の材質への改 築とあるが、どのような内容か。	・非コンクリート、主にFRPに変えていくこととしてい る。昨年度、風早小学校を改築し、来年度開校する 龍王小学校はFRPなので、36校のうち30校が非コ ンクリートプールとなる。31校目として豊栄小学校 のプールを改築する。	中川分科員	教育総務課
理科観察実験ア シスタント配置事 業について	・理科の活動支援について、9名で 全部の小学校に行くのか。	・理科アシスタントの配置は教育委員会で選定して いる。小学校に理科の専科がいれば任せることとし ている。学校や人員の状況を見て、必要な場所に 配置している。	玉川分科員	指導課
小中学校情報教 育推進事業につ いて	・ICT機器をどこまで導入するの か。	・現在、電子黒板各クラスに1台、タブレットは4人に 1台という状況で、1人1台ではないため検証は難し い。まずはそこに向けて整備をし、フルにICTを使 った学習ができる状況になってから検証したい。	谷分科員	教育総務課
	・ICTを活用した発達障害の子ども や個々の子どもに対する教育につ いて、本市ではどのように考えてい るのか。	・特別な支援が必要な子どもには学習面での視覚 的な支援としてICT機器は効果があると思ってい る。一人ひとりがタブレットで学習することも大事だ が、皆で対話しながら協働で学んでいくことも重要 と捉えている。	小川分科員	指導課
	・ICT機器を利用した教育に力を入 れているが、高い教育レベルを目 指すのに必要なのか。世界トップ レベルの国では思考し、創造する力 を養っている。自然に触れること で、感性を養っていかないと、そ ういう教育はできない。本市でど ういった教育を行っていくのか。	・ICT機器は、あくまでも深い学びをするための道具 と考えている。教員が道具を上手く使うことによ って、深い学びに持っていきたい。実物に触れるこ		

質問項目	質問の要旨	答弁の要旨	質問委員	担当課
教科書採択について	・教科書採択に関して本市では情報公開を行っていない。採択に関わる情報の提供は必要と思うがどうか。	・採択に関する情報公開については、国からの要請や関係法令に基づいて行っている。採択の結果や理由については、HP上で公開している。その他必要な情報については、請求があれば公開することとしている。	谷分科員	指導課
	・市民が求めているのは、会議の公開、採択結果の公表、選定委員の氏名や議事録の公開であると思うが。	・会議の公開以外は本市でも採択完了後速やかに行っている。会議の公開に関しては、静謐な環境というところも大事なことであり、選定委員に外部からの圧力があってはならないといったこともある。現在適切な採択が行われているので、来年度も意見を広く聴きながら進めていきたい。		
通学路の安全について	・通学路の安全については、議会からも要望があったと思うが、教育委員会としてはどのように思われているのか。	・通学路については、学校から要望を出してもらい、教育委員会で取りまとめて会議で検討している。すぐに対応できるもの、時間がかかるもの、関係機関に要望を上げるものがあり、現場を確認して、優先度の高いものから対応している。	小川分科員	教育総務課
	・危機管理課の所管だと承知しているが、教育委員会から訴えて、子どもの安全面から協議して変えていかなければならないのではないのか。	・関係機関との連絡協議会には危機管理課も入っている。できるところから改善してもらいたいと思っており、現場を確認しながら状況に合わせて改善していきたい。		
外国語活動指導協力者の派遣について	・西条町、八本松町、高屋町の3エリアに特化されているが、それ以外の地域の対応は。	・ALT6名では全ての学校の対応はできないので、足りないところに地域人材の方に入ってもらっている。どこの学校も同じように外国語活動ができるようにしている。	北林分科員	指導課
	・指導協力者は何名くらいいるのか。	・現在11名の方にご協力いただいている。		
	・11名で月2回程度3町を回られるのか。	・そういうことになる。主にその地域に住んでいる方に行ってもらっている。		
学校生活相談について	・予算が100万円程度増えている。スクールソーシャルワーカーの活動時間、相談件数が増加しているということか。	・平成30年1月末現在で546回、時間にして759時間対応していただいている。学校だけでは対応できない家庭が増えており、そういった家庭に入っていたきながら現状を改善していこうと考えている。	中川分科員	青少年育成課
小中学校就学援助事業について	・生活保護費が減額となった影響分が、来年度はどうなるのか。	・過去的生活扶助の減額については、現在においても当時の計算に基づいて算定しており、対象となる人数は少ないが、影響分を見込んでいる。積み上げという形で予算措置していないが、対応できるようにしている。	谷分科員	学事課
	・広島県では就学困難な児童が4人に1人とのことだが、東広島市独自で調査はされているのか。	・調査は県と共同で行うので、市独自では行っていない。		指導課
	・就学援助の前倒し支給で、制服費未納者が今年度はゼロということで、成果は出ている。どのような対応をされたのか。	・新入学生の保護者の方には、12月中旬に案内を配布した。ホームページでの告知や新聞報道の影響もあり、申請を多くいただき、審査をして今月中旬から支払いを進めていくこととしている。		学事課
	・高校の就学援助についても、支援は必要であり、広島県に要望するべきではないかと思うがどうか。	・国や県でも支援は拡大しており、大事なことで県に働きかけ、意見していきたい。	小川分科員	指導課
	・貧困率について、福山市は30%とのことだが、東広島市が分からないのはなぜか。	・県が主体で調査する自治体と独自で調査する自治体がある。		
学校司書の配置について	・昨年度、学校司書配置6名新規事業がスタートしたが、今年度も6名。十分との判断なのか。	・今年度は主に学校図書館の整備をやってもらっている。この整備が済んだ時点で、次が見えてくるのかなと思っている。来年度整備をする中で、今後の検討を進めていきたい。	北林分科員	指導課
学校の酷暑対策について	・事務事業シートに記載がないが、学校の酷暑対策についてはどのように考えているのか。	・酷暑対策については、以前にも調査に取り組むと答弁した。必要なことと認識しているので、		

質問項目	質問の要旨	答弁の要旨	質問委員	担当課
部活動等支援事業について	・名古屋市では部活動の指導員を外部委託しており、教職員は部活動の指導は行わないということだが、本市の対応状況をお尋ねする。	・部活動指導者の雇用状況については、県との調整というところで、はっきりした方針は持っていないが、何らかの形で教員の支援を考えて取り組んでいかなければならないと思っている。	谷分科員	指導課
	・これまでの答弁では、一週間に一日の休養日を設けるとのことだったが、これを拡げるという考えはあるのか。	・先日、国からも部活動のガイドラインが出されたところであり、それを踏まえながら今後本市としても県と調整しながら、検討していくこととしている。		
小中学校教育支援者配置事業について	・小中学校に支援の必要な子どもたちが何人いて、現場から何人の要望があって、結果としてこれだけの配置予定になっているのか、実態を教えてください。	・教育支援者については、来年度、小学校32校から188名、中学校9校から28名の要望が出されている。	宮川委員	指導課
	・要望以前に現場に支援が必要な子どもたちが何人いるのか把握されているのか。	・診断を受けている児童生徒、そうでない児童生徒もいるが、小学校で7%、中学校で4%から5%の間というところで把握している。		
	・パーセントを実数にしたら何人ぐらいになるのか。	・小学校は約720名、中学校が約180名となる。		

【生涯学習部関係】

質問項目	質問の要旨	答弁の要旨	質問委員	担当課
生涯学習センターの設備改修について	・生涯学習センターの空調工事が完了との説明があったが、これで全てもう大丈夫なのか。	・終わりではない。来年度の改修も予定している。 ・ホールと諸室など、年度をまたいで施工することとなる。	中川分科員	生涯学習課
	・30年度以降の全体計画づくりはいつやるか。	・ファシリティマネジメントの観点から平準化は必要。 ・計画は、今年度から検討を進めている。 ・来年度以降、早いうちに長期修繕計画を作ろうと思っている。	北林分科員	
	・いつやるのか。	・来年度準備して、早めに立てたいと思っている。		
学校開放事業に伴う施設修繕について	・学校施設を開放して市民にスポーツをしてもらっているが、ラインなどがはがれた修繕対応はどうしているか。	・修繕が必要な場合、学校と連携を取りながら対応したいと考えている。	玉川分科員	スポーツ振興課
	・どうするかを学校も知らない。今後、どういう風にしていくか、目安かやり方を説明してほしい。	・修繕については、現場から要望などを出していただきながら、状況に応じた対応をする。		
	・使用料は取っているか。	・体育協会加盟団体は使用料は無料。但し、照明使用料はいただいている。		
学校司書の配置について (学校教育部)	・昨年度、学校司書配置6名新規事業がスタートしたが、今年度も6名。十分との判断なのか。	・今年度は主に学校図書館の整備をやってもらっている。 ・この整備が済んだ時点で、次が見えてくるのかなと思っている。来年度整備をする中で、今後の検討を進めていきたい。	北林分科員	学校教育部 (指導課)
区民プール(豊栄)について	・来年度の豊栄の区民プールの対応を教えてください。	・H30は計画通り開放していく。	谷分科員	スポーツ振興課
	・実情では大変に利用が少ない。冬に排水管が凍結して破損したとも聞いている。維持するか悩まれていると思うが、八本松市民プールのように広く市民に使ってもらえないのか。	・地元の区民プールだが、利用は誰でもできる。 ・利用率が向上するよう、地元と協議しながら取り組んでまいりたい。		
	・オオサンショウウオの研究(保護)に活用したいと話があったかどうかについて教えてください。	・産業振興課から地域活性化に関連した提案は受けた。		
	・保護にはかけ離れた実態になるのではという市民の不安もあるので、研究者と相談しながら判断してもらいたい。	・解体予定だった能美のプールで、産業部が既に検討している。 ・広大の先生が入られて、豊栄の環境をどう守っていくか、地元と協議しながら考えられていると聞いている。		
スポーツ活動活性化事業について	・予算が減っている。事業についてどのように考えているのか。	・(本事業では)市民スポーツ大会や新春駅伝など、市民参加型のイベントを推進する。事業団に依頼した促進事業を行う。また、継続してトップアスリートの合宿など、子供たちがふれる機会を増やす。 ・事業費の減については、アクアパークが2年間使えないので、競歩関係の予算が減ったこと、スポーツツーリズム関係予算が骨格に入っていないため。	中川分科員	スポーツ振興課
	・項目4番にすべての報酬などがひとくくりになっているという理解でよいのか。	・スポーツ推進審議会の費用弁償や消耗品費、郵便料が含まれている。		
くららについて	重たいドアの開け閉めに手や足を詰めそうとか、エアコンの換気ができないとの話がある。不具合があれば、すぐに対応できないのか。	・使用の中で不具合が出ているところはある。営繕課と協議して即応できるものは即応している。 ・ドアは構造上重くならざるを得ないが、人を配置することで高齢		

質問項目	質問の要旨	答弁の要旨	質問委員	担当課
生涯学習フェスティバルの開催について	・H29に生涯学習フェスティバルを初めてくららで開催し、空調など参加者から様々な意見があったと思うが、そういった意見をふまえてH30はどのような方針で開催するのか。	・H29は会場を変更して初開催であり、内容は前回までのものを踏襲した。そこで、空調や会場の広さ等、多くの意見を頂いた。 ・くららで開催する生涯学習フェスティバルをどういう内容にすればよいか勉強できた。H30の開催にむけて、各諸室やスペースの使用方法を検討していく。	小川分科員	生涯学習課
	・生涯学習フェスティバルは学習活動の発表の場であり、多くの市民が参加できるイベントであるべき。そのため、くららよりも運動公園体育館の方が会場として適していると考えている。 なぜ運動公園ではなく、くららでの開催とするのか。	・芸術文化ホールくらは中央生涯学習センターとしての機能も有しており、全市的な生涯学習のイベントの開催に適している。くららで開催してよかったという声も多くあった。会場や開催時期を変更したことで、新しい層の参加もあった。 ・H30の開催にむけて、駐車場等の課題を解決していく。	北林分科員	
	・開催場所をくららと決めつけるのではなく、アンケート結果を分析して、市民が参加しやすい一番良い方法を模索してもらいたい。	・アンケート結果を精査し、改善すべきところは改善し、今後もくららで開催をしていく。	宮川委員	
指定文化財等管理活用事業について	・今年度、日本遺産の認定に申請をされて4月には結果が出る。認定されるにしてもされないにしても、肉付けでの対応があるのかどうか聞きたい。	・肉付け予算の精査が進んでおり、できるだけ早く補正予算として提出させていただきたいと考えている。	奥谷委員	文化課
美術館活動事業について	・特別展の開催経費が半減しているが、なぜか。	・来年度企画展は、現美術館の2階のみで開催し、1階は新美術館の準備のための事務スペースとなる。 ・企画展の回数が減るとともに、展示も2階のみとなる。	奥谷委員	文化課
	・減少する展示スペースの代替施設はさがしたのか。	・検討したが、空調管理や所蔵作品などの移動が難いため、展示は現美術館の2階のみとした。		

平成30年度東広島市一般会計補正予算(第1号)追加提出議案の主な質問・答弁

【学校教育関係】

質問項目	質問の要旨	答弁の要旨	質問委員	担当課
学校のトイレの洋式化について	・今考えているのは少ない学校からとのことだが、何基ぐらいやろうとしているのか。	・本校舎、体育館、全てのトイレの洋便器率は47.9%で、洋便器率が極端に低い学校について、順次改修していく。平成30年度は小学校40基、中学校14基を予定している。	北林委員	教育総務課
	・何校ぐらい予定されているのか。	・小学校12校、中学校5校を予定している。		
	・全体の目標として何年ぐらいでやるのか。	・まずは20人に1基を目指す。そのためには、あと176基が必要となる。体育館のトイレは、避難場所となるため、高齢者等が利用されることから、洋便器化の必要がある。これらを、5年程度をめどに整備していくことを目標としている。		
	・体育館のトイレは、高齢者が集会で使用することもあり、多目的トイレにする取組みはどのくらい進んでいるのか。	・小中学校の体育館・武道場の洋便器は103基あり、そのうち多目的トイレは36基となっている。	小川委員	
	・多目的トイレ化についての目標は立てられているのか。	・避難所としての規模等を加味しながら検討してまいりたい。		
空調設備整備基礎調査について	・学校の暑熱対策に関する調査ということでよいのか。	・学校の酷暑対策としてエアコンの導入を目指し、まず導入の基礎調査、電気系統の図面が古い学校もあるため、現状の調査と導入の手法について検討する。	中川委員	教育総務課
	・学校の現状は把握しているのか。1階と3階の温度差とか。	・温度等は学校で実測し、把握している。	岩崎委員	学事課
	・電気系統の調査だけと聞こえるが、間違いないか。	・現状の基礎調査に併せて、PFI導入の可能性も調査検討するものである。		
	・子どもたちの体調管理などはどのようにお考えか。	・エアコン運用基準を考える必要があるが、快適さを求めるものではないので、授業に支障が出ない範囲で導入していきたい。		
	・運用面や活用といったところまで計画を立てて、更新も踏まえて健康面に関しても調査し、適温での管理も考えていただきたい。	・文部科学省から学校環境衛生管理マニュアルが出されており、適した温度基準として、冬は18℃から20℃、夏は25℃から28℃と示されている。それを参考に、実際に測定しながら措置してまいりたい。	谷委員	教育総務課
	・財源についてはどの程度を見込んでいるのか。	・概算であるが、普通教室で20億円あまりを見込んでいる。		
外国語指導助手コーディネーターの配置と外国語指導助手の派遣について	・外国語指導助手コーディネーターの配置と外国語指導助手の派遣とはどういう関わりがあるのか。	・ALTの増員に伴い、コーディネーターを配置する。多くのALTは、日本の文化や学校の状況を知らないため、ALTを学校とつないでいく役割を担うことになる。併せて、日本に初めて来るということで、生活で困っていることなどの相談に乗ることができる。	玉川委員	指導課
	・日本で生活する補助の役割ということでしょうか。	・まずは学校とALTをつないで授業を行うためである。それに併せて、生活の補助ということになる。		
	・何人を想定されているのか。	・コーディネーターは1名で、あとは指導主事でカバーしていく。		
	・学校とのつながりということであれば、もう少し人数がいてもいいのでは。今後検討されるのか。	・横のつながりも活用して繋いでいきたい。今後については様子を見ながら検討していく。		
	・教室で学ぶ国際			

質問項目	質問の要旨	答弁の要旨	質問委員	担当課
無線LANアクセスポイントの購入について	・事業の全容を教えてください。	・校務支援システムの導入なども予定しており、無線LAN環境を整備するもの。校務をシステム化することで、漏れやミスも無くなり、また、教員が子どもと向き合う時間を確保できるようにしたい。 ・タブレットの使用環境として、現在は持ち運ぶタイプのアクセスポイントを使っているが、このシステムの導入に併せて、各教室でそのままタブレットを使用できるように、固定式のアクセスポイントを設置するものである。	北林委員	学校教育部 (教育総務課)
	・校務支援システムが入ったのはいつか。	・平成30年度に導入するものである。		教育総務課
	・例えばタブレットに問題が出てきて、○か×か選べば大画面に映し出される、そういったこともできるのか。	・無線LANがあれば、おっしゃられたことも可能になる。		指導課
	・教材のライセンスの問題、また特定のところに偏ったりはしないか。普遍性はどのように担保するのか。	・授業ではデジタル教科書を活用する。校務支援システムとは用途が違うものである。	大道議員	教育総務課
	・管理面に特化した支援システムと理解してよいか。	・授業以外の成績処理、指導要録、出欠管理等をシステム化することである。		教育総務課
	・全学校、全教室に無線LANを張られるということか。	・電子黒板、大型提示装置がある教室に全て配備する予定で、2か年で計画している。		教育総務課
	・全教室ではなく、電子黒板のある教室やパソコン室などということか。	・全教室を目指して設置する。		教育総務課
	・全教室となると、事前調査が必要かと思うが、調査はされているとみてよいか。	・本格的な調査はしていないが、メーカーによれば干渉はないものとみている。		教育総務課
大型提示装置について	・電子黒板の機能を補てんするものなのか、使い分けなど教えていただきたい。	・今まで電子黒板とパソコン1台がセットで、パソコンで操作をしていた。今回導入する大型提示装置は、大型ディスプレイで、タブレットをつないで使用する。電子黒板は高額であり、大型提示装置でも同じような授業ができる。	中川委員	教育総務課
	・電子黒板135台、大型提示装置180台のリースとあるので、併用して使うのではないか。	・電子黒板より安価であるため、大型提示装置を一定程度導入していくが、電子黒板と併用するものである。		指導課
	・電子黒板と画面の大きさに差は無いのか。	・画面の大きさは変わらない。電子黒板には便利な機能があり、大型提示装置はタブレットでの操作をディスプレイに反映することができるため、併用しながら授業に活用していきたい。	小川委員	指導課
	・子どもたちが個々でタブレットを操作したものが、大型提示装置では映し出せるということか。	・接続をすれば、電子黒板と大型提示装置のどちらでも可能である。		指導課
	・機器のリース期間は。	・5年である。	谷委員	教育総務課
パソコンのリースについて	・校務用パソコン865台等、一年ごとにリース料をこれだけ支払うという理解でよいか。	・現在、リース契約しているものである。	北林委員	教育総務課
河内小中学校一体型施設の整備について	・河内西小学校区の方の中には、どうして中学校敷地に新しく小学校を建てるのか等、という疑問の声がある。住民の声をしっかり聞いているのか。	・これまでも河内小、河内西小の統合は、地域への説明、協議を進めてきた。中にはそのような声もあったが、説明をする中でご理解をいただいたものと認識している。平成34年4月を目標に新たに小学校を建設することとし、当面、平成31年度から河内西小と河内小が統合し複式を解消することとして、自治協議会、保護者の方の合意をいただき、事業を進めている。	谷委員	教育総務課
	・日程調整が3日前で、協議会に出席できないという人がいた。事後説明が要ると思うので、再度お願いしたい。	・統合協議会で合意をいただき、現在は統合準備会で校歌や通学の方法などを話し合っていた。話し合われた内容は準備会だよりをもって広報している。		教育総務課

質問項目	質問の要旨	答弁の要旨	質問委員	担当課
小中学校一体型施設の整備について	・福富小中学校一体型施設の整備について、小中の教育の中身や、小中それぞれの先生の連携はどのように考えるのか。	・同一敷地内に小中一体型の施設を建設することによって、移動にかかる時間が非常に短くなり、また中学校教員の専門性を活かした内容を小学校教員に伝えることができ、義務教育9年間における成長を描きながら仕事ができる。	乗越議員	学校教育部 (学事課)
	・福富と河内の具体的な整備内容について説明していただきたい。	・志和、福富、河内のそれぞれで設計に入る。今ある中学校の校舎に小中学生が生活していくことになるので、十分配慮しながら、配置などについては、基本設計の中で検討してまいりたい。		教育総務課
	・もう少し詳しく説明をしていただきたい。あと、今の中学校の敷地、特にグラウンドに影響は出ないのか。福富はある程度敷地は確保できると思うが、河内は敷地が限られているという懸念もあるが。	・福富は敷地が十分広く、基本的には小学校部分を中学校に接続する。プールは体育館の北側、小学校校舎は中学校の上の段に接続する構想である。河内中については給食センター跡地の活用を考えており、現段階ではプールの配置を考えている。小学校をどのようにつなげていくかイメージはまだ持っていない。規制もあり、今後基本設計の中で検討していきたい。		学校教育部 (教育総務課)
	・グラウンドの面積に影響を与えないような設計をお願いしたい。 ・河内中学校に行く小学校はもう一つ入野小学校がある。そのあたりの意識がないように感じるが、どのように考えているか。	・入野小学校が実質一校離れた状態になる。その中で小中学校が連携した教育というのは入野小学校も含めたものである。一体型施設だけに特化したものではなく、入野小学校との交流も同時に図り、中学校入学時に戸惑うことがないよう、教育内容や人間関係に配慮してまいりたい。		学校教育部 (学事課)
	・今後、全ての対象地域に声を掛けて一体型教育について説明会をすべきではないか。	・河内地区が変則的であることは十分認識しているので、今後事業を進めていく上で、ハード部分、ソフト部分ともに関係地域全体に説明してまいりたいと思う。		学校教育部 (教育総務課)
	・新年度に入って早い段階でそういう機会を設けるべきと思うが。	・事務局内で詳細な部分が固まっていないが、新年度の早い段階で、自治協とも連携を取りながら進めてまいりたい。		
川上小学校の今後の推計について	・周辺では都市部が開発を促進して、結局空き家になっている。歩道の整備は土地所有者のこともあってなかなか協力してもらえない状況もある。こういった問題、まちづくりをどうするのか、部局を超えて考えていかなければならないのではないか。	・川上小学校の児童数については、平成29年度は632人、18クラス。平成30年度は692人、20クラスとなり、平成35年度は821人、25クラスとなる見込みである。あくまでも自然増、住民記録を基にしており、社会増は含まれていない。川上地区に限らず、寺家地区、西条第二地区など、今後の学校の状況については、担当部局と連携しながら、推計し、十分に検討してまいりたい。	谷委員	教育総務課
特別支援教育相談員の配置について	・概要を教えていただきたい。	・特別な支援を必要とする児童生徒の就学に関する相談件数が増加している中、保護者のニーズに相談員を設けて対応する。併せて、学校からの相談にも応じながら、特別支援教育の充実を図る。	北林委員	指導課
	・相談者は保護者や現場の教員ということでしょうか。	・相談員は、様々な相談に対応すべく、特別支援教育の免許状を有している専門性の高い方を想定している。		
	・相談員は指導課に配置するということか。	・指導主事といっしょになってやっていく。		
	・現場からの願いに対し、教育委員会の判断として現場主義でなく管理主義と捉えられるが。	・支援員の他、サポーター制度や教師の指導力向上といったものもあるが、相談員を配置することで、保護者の様々な相談、悩み事に迅速に対応していきたい。通級指導教室も増加しており、その指導内容について相談員も含めて当たっていきたい。		

質問項目	質問の要旨	答弁の要旨	質問委員	担当課
幼稚園カリキュラムの研究開発について	・カリキュラムはどのように展開していくのか。	・県の委託事業であり、県教育委員会が幼児教育のプランを策定したが、その中にある育みたい5つの力、これをどのようにして幼稚園教育に展開していくか、公開保育なども行いながら、2年間で実施するもの。研究の成果は広く市内、県内に拡げたいと考えている。	小川委員	指導課
	・県内ということは、モデル的な取り組みか。	・県の委託を受けて行うもので、本市で受けさせていただいている。		
	・保育所にも波及していくものなのか。	・保育所、認定こども園を含め、幼児教育として普及していく。		
	・県内ということは、東広島市以外に他の市町もあるのか。	・研究開発については5カ所程度で行っていきたいと聞いている。		
部活動支援員について	・3人配置するということだが、位置付けは。また、どこに配置されるのか。	・配置校、人選も含めて検討しているところである。初めてのことで、どういう効果があるか検討しながら今後につなげていきたい。	玉川委員	指導課
	・外部から雇い入れるということか。	・教員の支援ということで、外部の方も含めて検討している。		

【生涯学習部関係】

質問項目	質問の要旨	答弁の要旨	質問委員	担当課
スポーツツーリズム推進事業について	・平成29年度の新規事業であるスポーツによる地域活性化推進事業と同じようなものかと思ったが、前回の内容と今回どのように違うのか教えてほしい。	・今年度については、スポーツツーリズムについて調査・研究ということで取り組んだ。そうした中、より具体化した内容で平成30年度は推進を図っていきたいと考え、予算を計上させていただいた。	中川委員	スポーツ振興課
	・昨年に比べて2,450千円上乗せされているが、具体化ということで何かあればお願いしたい。	・平成30年度からゴルフをスポーツツーリズムの核として推進していきたいと考えている。本市は、ゴルフ場が7クラブ8コースあり、ゴルフ協会も非常に意欲を見せている。ゴルフ認知度も高い。また、本市にはパークゴルフ場が2つあること、スナッグゴルフも全国クラスであることも含め、ゴルフを核としたスポーツツーリズムを推進していきたいと考えている。		
	・ゴルフは、交流人口を増やすことも大きな目標であると思う。具体的にゴルフの大会を開催するといった意味合いなのか。	・まずは推進会議等を立ち上げたいと考えている。推進会議と関係団体等との意見交換会や、先進地の視察として兵庫県の三木市がゴルフを取り入れた街づくりに取り組んでいることの視察、あるいは講師を招いての研修会などを考えている。また、モデル事業として、プロゴルファーを誘致し、市民との交流や技術指導を行うなど、ツーリズムに繋げていきたい。	奥谷議員	
生涯学習フェスティバルについて	・イベント内容の充実として555千円が計上されてあるが、その内容はどのようなものか。	・市の中心地にあるくらで開催する生涯学習フェスティバルをさらなる市全体の一体感が醸成されるイベントとするため、大ホールで小・中学校の発表会を企画している。そのための音響スタッフ人件費や機材搬入費として計上している。	中川委員	生涯学習課
図書館サービス計画策定支援業務について	・委託料756千円について、これまでそういった計画はなかったのか。	・現在は、一次の図書館サービス計画が策定されている。予算に計上しているのは、二次計画であり、今後5年間の図書館サービスについてどうあるべきか、専門家の支援のもとに策定に取り組む。	北林委員	生涯学習課
	・専門家とはどういった方になるのか。	・図書館総合研究所を想定している。		
	・図書館総合研究所はどういった組織か。	・公共図書館の基本構想策定業務、施設設計支援業務、館の移転、配架計画策定業務、新設館の備品等設計業務等、図書館にまつわる総合的なシンクタンクである。		
	・専門業者にこの業務をすべて任せるとのことか。	・すべてを任せるつもりはない。公共図書館、学校図書館について指定管理者と生涯学習課、学校が一緒になってより良い計画を策定していく。		
	・学校図書館に対する中央図書館の支援について、センターはあるが配置人数が1名と状況は変わっていない。学校図書館への司書の配置もなかなか進んではない。図書館が民間に移行した時に現行の計画を見直すつもりはなかったのか。	・現行の図書館サービス計画は指定管理移行前から策定されており、その内容を指定管理者に伝え図書館の運営を行っている。そのうえで、今後二次計画を一緒になって策定していくもの。		
	・図書館を取り巻く環境は変わったが、計画の修正は考えなかったということか。	・指定管理に変わったから、図書館サービス計画を変えるという事は考えていない。計画の中で、指定管理者にサービスを展開していただくものと考え。次回の計画策定では、新しい技術やトレンド等、変化する世の中の情勢を組み込みながら検討してまいりたい。		

質問項目	質問の要旨	答弁の要旨	質問委員	担当課
歴史的建造物群調査について	・何をするのか。	・西条酒蔵地区の町並みについて、今後どのように保存していくのかを検討するため、建造物等の調査を行う。	玉川委員	文化課
	・酒蔵群の調査は行っていたのでは。	・今回の調査は、酒蔵だけでなく、町家などの建造物等の調査や、その地域の歴史や成り立ちについて、その価値を総合的に調査する。		
	・日本遺産や日本の20世紀遺産20選との関係は。	・日本遺産は、現在文化庁に申請中で、活用を主体としたものとなっている。先般、酒蔵群が日本の20世紀遺産20選に選定されたところだが、こちらは保存を主体としたものとなっている。今回の歴史的建造物群調査は、今後の保存の方策を検討するための調査である。		
	・酒蔵地区の町並みは、重要なものだと思うので、しっかり調査し、資源として残していただきたい。	・調査だけではなく、地域にお住まいの方々とも連携して事業を進めたいと考えている。		
オリンピック事前合宿推進事業について	・もう少し具体的にお願いしたい。	・市の負担金が28,000千円、その他として臨時職員を合宿期間中に3名配置したいと考えている。また、メキシコ選手団が滞在中に、市の職員がメキシコチームに帯同することになっているので、そのための食糧費をあげさせていただいている。	石原議員	スポーツ振興課
	・事前合宿等を支援する団体へ市から28,000千円を拠出するとある。実行委員会だと思うが、これは出来ているのか。また、どのような団体か。	・実行委員会だが、1月26日に設立している。行政、議会をはじめ、競技、宿泊、輸送、医療、競技会場など17の関係団体に委員として出いただき構成している。		
	・自治体へ県が支援することになっていると思うが、県からの支援、補助金などはどうなっているか。	・メキシコチームの宿泊費として上限15千円に対して、1/2を補助することで、現在見込みとして、1,600千円が県の実行委員会から支出されることとなり、市の実行委員会の平成30年度の予算としては、市の負担金の28,000千円に、県からの補助金の1,600千円を合わせた額での予算編成になる。		
	・臨時職員が何故発生するのか。本市で合宿推進事業へ別途充てることになるのが見える。実行委員会で全てやってもらっていいと思うがそのあたりを分けた理由はあるか。	・さきほど臨時職員を3名と言ったが、1名を3ヵ月ということで訂正させていただきたい。臨時職員を市の予算の中でやることについては、メキシコチームの滞在期間に対する補助的な意味での配置を考えている。	奥谷議員	スポーツ振興課
	・今回の予算は競技的にはゴルフ・レスリング・卓球全てを含んだ予算なのか。	・レスリングとゴルフの2競技である。レスリングで19,000千円、ゴルフで10,000千円程度。卓球競技が秋頃、視察予定で、その経費は、メキシコがいつ来るか分からないということで今年度の補正予算を充当したいと考えている。		
	・28,000千円は滞在費等で地元で落ちるので私は良いと思うが、成果目標に交流事業参加うんぬんと書いてある。この間、レスリングなり或いはゴルフでどのような交流事業を考えているか。	・合宿期間中にどの程度やるか確認を交わしている。レスリングの場合は、合宿期間中6日、午前中だけでも1回と考え6回。ゴルフ競技の場合は、1/3を交流事業に充てる。交流の内容は、食文化の交流や学校へ訪問しての児童・生徒との交流、メキシコ選手との運動会など考えている。また、著名人による講習会や技術指導等も交流に含んでいる。市内も見いただき酒文化の交流なども交流メニューに取り入れている。		
	・28,000千円の中で、選手の滞在費などを除いて、本市で行う交流事業に使うお金はどれくらいか。	・レスリングの交流事業で約3,500千円程度を見込んでいる。また、ゴルフの交流事業で、約1,800千円程度を見込んでいる。		
自由討議～美術館の建設について	・美術館の建設、公立の美術館の建設は、なかなか費用対効果が大変ということで、進んできていない。その中で手を挙げられるわけだから、10年先、20年先の運営はどうかといった思いもしている。急いでやられなくても、適当な時期が来て対応すれば良いのではないかという思いでいる。		谷委員	